

OPERATION MICROSCOPE

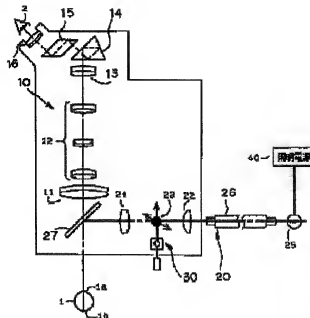
Patent number: JP7148179
Publication date: 1995-06-13
Inventor: TOMIOKA KEN
Applicant: NIPPON KOGAKU KK
Classification:
 - international: **A61B19/00; A61F9/007; G02B21/06; A61B19/00; A61F9/007; G02B21/06; (IPC1-7): A61B19/00; A61F9/007; G02B21/06**
 - european:
Application number: JP19930301838 19931201
Priority number(s): JP19930301838 19931201

Report a data error here

Abstract of JP7148179

PURPOSE: To fix a patient's gaze in a specific direction when the patient's eye is operated.

CONSTITUTION: An operation microscope comprises an optical observation system 10 for observing an eye 1, an incandescent lamp 25 for illuminating the eye 1 and an optical illuminating system 20 for leading a beam emitted from the lamp 25 to the eye 1. A mark 23 is located on an optical path of the beam and is movable both parallelly and vertically with respect to the optical axis of the optical illuminating system 20 by a device 30 for moving the mark.



Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

特開平7-148179

(43) 公開日 平成7年(1995)6月13日

(51) IntCl. ⁸	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 B 19/00	5 0 8			
A 6 1 F 9/007				
G 0 2 B 21/06		7625-2K		
		7108-4C	A 6 1 F 9/00	5 5 0
審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 4 頁)				

(21) 出願番号 特願平5-301838

(22) 出願日 平成5年(1993)12月1日

(71) 出願人 000004112

株式会社ニコン

東京都千代田区丸の内3丁目2番3号

(72) 発明者 富岡 研

東京都千代田区丸の内3丁目2番3号 株式会社ニコン内

(74) 代理人 弁理士 三品 岩男 (外2名)

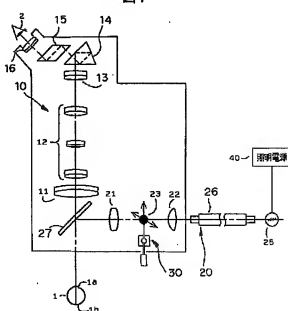
(54) 【発明の名称】 手術用顕微鏡

(57) 【要約】

【目的】 眼を手術する際、この眼の視線を特定の方に確実に固定させる。

【構成】 被検眼1を観察する観察光学系10と、被検眼1を照明するための照明電球25と、この照明電球からの照明光を被検眼1に導く照明光学系20とを備えている。照明光の光路中には、視標23が設けられている。この視標23は、視標移動機構30により、照明系光学系の光軸と平行な方向及び照明系光学系の光軸と垂直方向に移動させることができる。

図1



【特許請求の範囲】

【請求項1】被検眼を観察する観察光学系と、該被検眼を照明するための照明光源と、該照明光源からの照明光を該被検眼に導く照明光学系とを備えている手術用顕微鏡において、

前記照明光学系は、前記照明光の光路が前記観察光学系の光軸上を通らない独立光路と、前記被検眼を該観察光学系の光軸上に位置させた際に、該照明光の光路が該観察光学系の光軸上を通る共有光路とを有するよう、構成され、

前記独立光路中に設けられている視標と、前記視標を前記照明光学系の光軸と平行な方向に移動すると共に該照明光学系の光軸と垂直方向に移動させる視標移動機構と、

を備えていることを特徴とする手術用顕微鏡。

【請求項2】前記視標は、焦点であることを特徴とする請求項1記載の手術用顕微鏡。

【請求項3】前記視標は、発光素子であることを特徴とする請求項1記載の手術用顕微鏡。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、眼の手術用顕微鏡に関するものである。

【0002】

【従来の技術】この種の手術用顕微鏡は、対物レンズや接眼レンズを有している観察光学系を備え、術者は、この光学系を通し、患者の眼の立体拡大像を観察しているところで、この種の手術用顕微鏡を用いて手術を行う際には、術者の必要に応じて、被検眼を任意の方向に向かせ、しかも、術中是被検眼を動かさずに固定させておく必要がある。特に最近、頻繁に行われるようになった角膜屈折矯正手術においては被検眼の固視は非常に重要である。

【0003】従来、被検眼を特定の方向に向かせておく方法として、術者が患者に対して口答で特定の方向を向くよう指示して、その状態を患者の意志で維持させるか、又は被検眼を特定の方向に向かせて制御系等で固定しておく方法が取られている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかし、口答で特定の方向を向くよう指示するだけでは、被検眼の固視は徹底されず、又、制御系を用いる方法では、手間がかかるという問題点がある。そこで、本発明は、上記問題点に鑑みてなされたもので、術中における被検眼の固視を簡単且つ確実に行えることが可能な手術用顕微鏡を提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記問題点を解決するために手術用顕微鏡は、被検眼を観察する観察光学系と、該被検眼を照明するための照明光源と、該照明光源から

の照明光を該被検眼に導く照明光学系とを備えている手術用顕微鏡において、前記照明光学系は、前記照明光の光路が前記観察光学系の光軸上を通らない独立光路と、前記被検眼を該観察光学系の光軸上に位置させた際に、該照明光の光路が該観察光学系の光軸上を通る共有光路とを有するよう、構成され、前記独立光路中に設けられている視標と、前記視標を前記照明光学系の光軸と平行な方向に移動すると共に該照明光学系の光軸と垂直方向に移動させる視標移動機構と、を備えていることを特徴とするものである。

【0006】

【作用】照明光源からの照明光は、照明光学系により被検眼へ導かれ、被検眼を照らす。一方、照明光に照らされた被検眼の像は、観察光学系を通過して術者に結像する。

【0007】手術する際には、視標の像が被検眼の眼底に焦点が合うよう、視標移動機構を操作して、視標を照明光学系の光軸と平行な方向に移動させる。つまり、被検眼が視標に焦点が合う位置（被検眼と共役な位置）に、視標を移動させる。術者は、この視標を見ている被検眼を観察光学系で観察しながら、手術を行う。患者の見る方向を変えた場合には、視標移動機構を操作して、視標を照明光学系の光軸と垂直な方向に移動させる。この結果、患者としては視標が移動するので、患者の見る方向が変わる。被検眼は、この視標を見続けることにより、固視し続けることになる。

【0008】

【実施例】図1は本発明の一実施例に係る手術用顕微鏡の概略構成を示す図である。本実施例の手術用顕微鏡は、被検眼1を観察する観察光学系10と、被検眼1を照明するための照明電球25と、照明電球用の電源40と、照明電球25からの照明光を被検眼1に導く照明光学系20とを備えている。

【0009】観察光学系10は、対物光学系と、結像光学系とから構成されている。対物光学系は、対物レンズ11、ズームレンズ系12により構成されている。ズームレンズ系12は、被検眼1を立体視する為に表示されていないもう1組のズームレンズ系を有している。つまり、ズームレンズ系12は、2組有している。結像光学系は、結像レンズ13、正立プリズム14、菱形プリズム15、接眼レンズ16により構成されている。これら結像光学系も、ズームレンズ系12と同様に、被検眼1を立体視する為に2組有している。

【0010】照明光学系20は、照明電球25からの照明光を特定の位置まで導く光ファイバー26と、光ファイバー26からの照明光を集光させるコンデンサレンズ22と、リレーレンズ21と、被検眼像を観察光学系10に導く一方でリレーレンズ21からの照明光を被検眼1に導くハーフミラー27とを有して構成されている。ハーフミラー27から被検眼1までの間は、照明光

光学系20の光軸と観察光学系10の光軸とが共有している。これは、観察光学系10で観察する部分を確実に照明できるようにするためである。また、ハーフミラー27から照明電球25までの間は、ここを通る照明光が観察光学系10の光軸上を通らないよう観察光学系10から独立している。この独立部分に有するコンデンサーレンズ22とリレーレンズ21との間に、視標23が設けられている。

【0011】視標23は、黒く、且つ中心窩の標準的な大きさである2〜3mm程度の径の球形を成している。この視標23は、視標23を照明光学系20の光軸と平行な方向、及び照明光学系20の光軸と垂直な方向に移動させることが可能な視標移動機構30に取付けられている。

【0012】視標移動機構30は、図2に示すように、その先端部に視標23が固定されている操作ロッド31と、操作ロッド31を揺動可能に支持する内側ロッド支持枠35と、内側ロッド支持枠35を操作ロッド31の長手方向に移動可能に支持する外側ロッド支持枠38とを有している。操作ロッド31は、その長手方向の略中間部に球形部32が形成され、視標23が固定されている側には反対側の端部に操作部34が形成されている。内側ロッド支持枠35は、円筒状を成し、その内径が操作ロッド31の球形部32の径の大きさとほぼ同じ大きさになるよう形成されている。操作ロッド31の球形部32は、この球形部32を中心として操作ロッド31が揺動するよう、内側ロッド支持枠35内に納められている。操作ロッド31の球形部32の外周側と内側ロッド支持枠35の内側との間の隙間は、操作ロッド31が小さな力で揺動しないよう、操作ロッド31の動きに対して抵抗となるブッシュ材36が設けられている。操作ロッド31の球形部32には、操作ロッド31の長手方向に長い切欠溝33が形成されている。外側ロッド支持枠38は、円筒状を成し、その内径が内側ロッド支持枠35の外径とほぼ同じ大きさになるよう形成されている。外側ロッド支持枠38内には、その長手方向に移動可能に内側ロッド支持枠35が納められている。外側ロッド支持枠38は、本体ケーシング19に固定されている。外側ロッド支持枠38には、その長手方向に平行な長孔39が形成されている。内側ロッド支持枠35には、この長孔39と操作ロッド31の切欠溝33とに嵌まり込むピン37が設けられている。このピン37は、操作ロッド31との関係においては、操作ロッド31がその長手方向へ回転し、回転しないようする役目を担っている。また、このピン37は、外側ロッド支持枠38との関係においては、操作ロッド31の長手方向の移動範囲を規制する役目を担っている。

【0013】なお、照明光学系20は、被検眼1の表面、つまり角膜1aの表面に、その焦点が合うよう構成されている。また、視標23は、被検眼1の眼底1bと

共役な位置になるであろう位置を中心として移動可能に配置されている。

【0014】次に、本実施例の動作について説明する。照明電球25からの照明光は、光ファイバー26によりコンデンサーレンズ22に導かれ、リレーレンズ21を通過した後、ハーフミラー27により直角方向に偏向され、被検眼1に達する。この照明光は、被検眼1の角膜1aを通過し、眼底1bで反射される。照明電球25からの照明光は、コンデンサーレンズ22からリレーレンズ21に至る間で、視標23を照らす。一方、被検眼像は、ハーフミラー27を通過した後、観察光学系10内に入射する。そして、被検眼像は、対物レンズ11を通過し、ズームレンズ系12で拡大された後、結像レンズ13、正立プリズム14、菱形プリズム15を通過して、接眼レンズ16により、術者眼2に結像する。

【0015】手術する際には、視標23の像が被検眼1の眼底1bに焦点が合うよう、操作ロッド31を揺動し、視標23を照明光学系20の光軸と平行な方向に移動させる。つまり、被検眼1が視標23に焦点が合う位置（被検眼1の眼底1bと共役な位置）に、視標23を移動させる。術者は、この視標23を見ている被検眼1を観察光学系10で観察しながら、手術を行う。患者の見ていた方向を変えたい場合には、操作ロッド31をその長手方向に移動させ、視標23を照明光学系20の光軸と垂直な方向に移動させる。この結果、患者にとっては視標23が移動するので、患者の見ていた方向が変わる。被検眼1は、この視標23を見続けることにより、図視し続けることになる。

【0016】ところで、照明光学系20は被検眼1の角膜1aの表面にその焦点が合うピントがセッティングされ、視標23は被検眼1の眼底1bと共役な位置に照明光を運ぶように配置されているので、患者にとっては視標23が見易く、術者にとっては視標23の影響をほとんど受けることなく被検眼1の角膜1a付近（前眼部）を見ることができる。さらに、視標23は、照明光学系20の独立部分に設けられているので、観察光学系10を通過する被検眼像はこの視標23に邪魔されないため、術者は、非常にクリアな被検眼像を見ることができる。

【0017】なお、以上の実施例において、視標23として、黒色の球体を用いたが、LED素子を視標として用いてもよい。この場合、照明光中の視標の存在を認識できるようにするため、照明光よりも光度が高いLED素子を用いるか、又はLED素子を点滅させるようにする必要がある。また、照明光とは、異なる色を発するLED素子を用いても、同様の効果がある。また、本実施例において、視標移動機構30は、単にその一例を示したものであり、視標23を照明光学系20の光軸と平行な方向及び照明光学系20の光軸と垂直な方向に移動させることができるものであれば、如何なる構成でも構わない。

【0018】

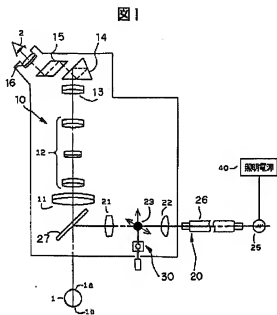
【発明の効果】本発明によれば、照明光学系内に設けた視標を移動させ、この視標を患者に見つめさせることにより、被検眼の視線を特定の方向に確実に固定させることができる。また、被検眼を制御系等で固定する必要がないので、被検眼の固定視を簡単に実現することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る手術用顕微鏡の概略構成を示す説明図である。

10

【図1】



【図2】本発明に係る視標移動機構の断面図である。

【符号の説明】

1…被検眼、2…術者眼、10…観察光学系、11…対物レンズ、12…ズームレンズ系、16…接眼レンズ、20…照明光学系、21…リレーレンズ、22…コンデンサーレンズ、23…視標、25…照明電球、27…ハーフミラー、30…視標移動機構、31…操作ロッド、35…内側ロッド支持枠、38…外側ロッド支持枠、40…照明電源。

【図2】

